

◆ 平成28年度活動報告シート ◆

団体名：第7回低炭素まちづくりフォーラム in 埼玉実行委員会

19A-37

代表者：実行委員長 横山完爾

URL :

1. 活動が必要とされた状況

県内の環境活動をさらに活性化させるためには、個々の活動（点）が繋がり、線になり面になるプラットフォーム的な場と役割が必要である。環境活動を行っているメンバー等が一堂に会し、情報交換など交流の場を持つことにより、活動が推進されることが期待される。さらに若者からシニアまで、世代を超えた意見交換の場から相互理解が深まる必要性を感じている。



2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

第7回低炭素まちづくりフォーラム in 埼玉

～つながろう 広がろう エコの環～開催

実施時期 平成28年12月10日（土）

参加人数 426名

開催会場 埼玉大学全学講義棟1号館

※地球温暖化防止活動推進員、自治体、環境団体、大学等を構成員とする実行委員会を組織し、企画・運営・準備を行った。フォーラム当日は講演会、8分科会を開催した。

<フォーラムの内容>

講演会 「自然災害、自然環境、その深いつながり、その中でわれわれはどうすべきか」
浅枝隆氏（埼玉大学大学院理工学研究科教授）

分科会 「遊ぼう！学ぼう！自然再生」、「フードロス削減に向けて」、「さいたまの生物多様性のいまを考える」、「エシカルと身近になろう」、他

3. 活動の成果

- ・埼玉大学と共催したため、多くの学生の参加が得られた。
- ・埼玉大学の研究テーマによる分科会も設置したため、分科会の種類が多くなり、参加者も増えた。
- ・環境ネットワーク埼玉が事務局支援を行い、スムーズに活動を行うことができた。
- ・他大学の学生主体の分科会も開催でき、多岐にわたる内容の分科会を開催できた。
- ・埼玉大学学生のポスターセッションも開催でき、普段目にする事のない研究分野を知ることができた。

4. 今後に残された課題

- ・早めに準備しているにも関わらず、運営や準備が遅延しがち。スケジュール通りに運営していくことが必要。
- ・継続的に議論することが必要であるため、今後も開催すべく早期に体制を整える必要がある。
- ・行政や企業の参加をどう促していくか。分科会の内容についても検討が必要。
- ・謝金や交通費が薄謝であるため、今後運営資金の確保が課題。
- ・県内の大学との連携等が課題。
- ・より参加者を得るための企画やアイデア、広報等の仕掛けが必要。